

FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 岳 五一

所属/職名： 知能情報学部/教授

参加セミナー名： 私情協教育改革 ICT 戦略大会

セミナー参加日時/場所： 2015 年 9 月 2 日（水）－ 4 日（金）/東京アルカディア市ヶ谷

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

本大会の開催趣旨(公益社団法人 私立大学情報教育協会(略称:私情教)HP から引用): 国は、学生が未知の時代に向かって自ら考え行動できる能力を生涯にわたり身につけるよう、大学教育の質的転換を図ろうとしている。それゆえ、知識の伝達・注入型の講義から、思考力・判断力・表現力を養い主体性をもって多様な人々と協働できる「真の学力」の育成を急いでいる。それには大学だけでは達成できず、高校教育との接続の中で最適な教育の仕組みを開発していく必要がある。

本大会では、アクティブ・ラーニングなどによる教育改善、学修成果の把握と可視化に向けた教学マネジメントの確立、大学教育と高校教育をつなぐ入学者選抜のあり方、などの観点から、「真の学力」を育成するための教育政策や教育方法、支援環境などについて総合的に探求する。

本大会は平成 27 年 9 月 2 日から 4 日までの 3 日間、アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)で実施された。初日の 9 月 2 日の「全体会」では、私情協会長の向殿政男氏の開会挨拶の後、長崎大学大学教育イノベーションセンター教授の山地弘起氏により、「アクティブ・ラーニングを知る」と題するアクティブ・ラーニングの重要性と課題に関する講演が行われた。続いて、徳島大学総合教育センター教育改革推進部門教授の川野卓二氏により、「全学へのアクティブ・ラーニング展開」と題するポートフォリオを活用したアクティブ・ラーニングスキルの浸透、そして、山梨大学大学教育センター副センター長の森澤正之氏による「反転授業を推進するための方策」と題する反転授業の実践を踏まえた、教室授業の工夫と教員への理解促進に関する講演が行われた。

その後、一般社団法人 Future Skills Project 研究会(FSP 研究会)事務局長の平山恭子氏による「初年次教育における PBL 型授業と運営の工夫、受講生から見た学習効果の紹介」、元株式会社資生堂人事部人材開発室室長兼キャリアデザインセンター長、実践女子大学大学教育研究センター特任教授の深澤晶久氏による「企業が PBL 型授業に期待する内容と学習成果」、そして、上智大学経済学部教授、キャリア形成支援委員会副委員長の荒木勉氏による「担当教員から見た学習成果と課題」と題する講演が行われた。最後に、独立行政法人日本学術振興会理事長、文部科学省顧問の安西祐一郎氏により、「真の学力を育成するための教育改革」と題する未来への教育: 高大接続システム改革の現状と展望について講演が行われた。

本大会は大きな会場が多数の参加者で埋まり、立って講演を聞く人も多いなど盛況であった。また、限られた時間にそれぞれの講演に対して活発な討論と質疑が行われた。

2日目の9月3日は分科会形式によるテーマ別自由討議が実施された。午前と午後に各2分科会が同時に実施されたが、どの会場も満杯の参加者であった。この分科会は初日の講演に関する理解を深めるために設けられたもので、教育現場における個別の課題として次の4つのテーマに分けられた、「地域社会での活躍を目指したアクティブ・ラーニングによる人材育成」、「学修行動のモニタリングと学修成果の可視化」、「教学マネジメント体制の確立への試み」、「価値を創出させるデータ活用力の教育モデル」。ここでも参加者を交え活発な討議が行われ、教育現場での課題の共有とその解決策に関する議論が行われた。

3日目の9月4日はA-Eの計5つの会場で同時開催された。教職員による77件のICTを活用した教育・支援環境の事例紹介があった。各発表は、A-1-A-6は双方向授業、A-7-A-12は事前・事後学習、A-13-A-16は反転授業、そして、B-1-B-6は授業方法、B-7-B-9は産学連携、B-10-B-16はPBL、C-1-C-9は教材開発、C-10-C-15は語学教材、D-1-D-6は授業支援ツール、D-7-D-9は携帯端末、D-10-D-12は情報教育、D-13-D-15はプログラミング、E-1-E-3は入学前教育、E-4-E-6は学修支援、E-7-E-9はキャリア教育、E-10-E-12はポートフォリオ、E-13-E-15は授業改善、に別けられた。

また、2日目の午後から3日目まで、大学・企業共同によるICT導入・活用事例に関する製品やシステムが展示され、賛助会員の企業と導入大学によるポスターセッションが実施された。

私は私情協サイバーキャンパス・コンソーシアム電気通信工学グループ運営委員会の委員です。これまでに同委員会、また、対話集会やアンケートなどによって能動学修の教育方法や到達目標などについて議論してきました。本大会参加を通じて、多方面の講演、発表を聞くことができました。それらは、今後のICT活用を含んだ効果的な授業マネジメント、学修の仕組み、評価方法などについての議論を深めていくため参考になるものと考えます。これからは、知識・技能と思考力・判断力・表現力を持ち、主体的に多様な人々と協働できる「真の学力」を学生に身に付けてもらうよう、教員、職員、教育機関、企業などが有機的に連携しなければなりません。次いで、学生の主体性を育む工夫、アクティブ・ラーニングに必要な学修環境、ICTを活用した新たな学習、主体性を引き出すための大学組織の構築、などを図っていく必要があると思います。

現在、甲南大学では段階的教育改革と教学新機軸構想が推進され、これらをサポートしていくためのキャンパス整備や基盤整備、教育改革なども並行しています。本大会の趣旨から見てもこのような整備と改革は不可欠なものと考えます。これらの成果に期待し、何らかの形で貢献したいと望んでいます。

FD 学外セミナー参加報告書

氏名：鳩貝 耕一

所属/職名：教育学習支援センター 教授

参加セミナー名：平成 27 年度 教育改革 ICT 戦略大会（私立大学情報教育協会）

セミナー参加日時/場所：平成 27 年 9 月 2 日～4 日 私学会館（東京）

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

今回は、最終日以外の日程で参加した。昨年同様、アクティブ・ラーニングを実行している国公立大学の発表が中心であり、国の大学改革の方向性にそったインパクトのある発表が目立った。

・全体会（9月2日）

午前の部では、長崎大学と徳島大学で教育改革を行っている部局のセッションがそれぞれあった。アクティブ・ラーニングの政策、意義、諸形態、事例などについての解説は、各大学における教育改革があまり進んでいないことの裏返しであるにとらえた。徳島大学では、SIH 道場（Strike while the Iron is Hot）と名付けた全学的なアクティブ・ラーニングの取組みが始まっている。

午後前半の部では、昨年のテーマ別自由討議で発表された山梨大学の森澤先生による反転授業の事例報告があった。もともと工学部での取組みだったものが、医学部や教育人間科学部へとその範囲が広がり、かつ効果の上がっていることが報告された。

午後後半の部では、中教審の安西先生が取り組んでおられる FSP (Future Skills Project) 研究会の取組みを事務局長の平山氏と元資生堂の深沢氏がその内容と意義について発表された。本学でもこれを参考にしたプロジェクト・ゼミが経済学部で始まっているが、大学入学早々の初年次学生に対し、産学共同授業を行い、難題で学生を覚醒させようという取組みである。続いて実施事例として上智大学経済学部の荒木先生が具体的な教育内容と成果について発表された。最後に、安西先生ご自身による中教審が行っている高大接続改革のドロドロとした現状を本音も含めて話された。改革を進めるため、多方面からのバックアップをお願いするとのことであった。

・テーマ別自由討議（9月4日）

午前午後を含め、4つの分科会が催されたが、このうち芝浦工業大学と山口大学による B「学修行動のモニタリングと学修成果の可視化」、および私情協情報リテラシー・情報倫理分科会と慶応義塾大学による D「価値を創出させるデータ活用力の教育モデル」に参加した。それぞれ有意義な知見が得られたが、午前の部ではループブリックによる学習成果の可視化についての理解が進み、午後の部では私が担当する情報リテラシー教育での一つの事例が大変参考になった。